

## 栃木県におけるユリカモメの観察記録

平野 敏明<sup>1</sup>

## はじめに

ユリカモメ *Larus ridibundus* は、日本では冬鳥として港湾や海岸、海岸付近の河川などに多数渡来する。内陸部である栃木県においては、本種は、おもに春秋に渡来することが報告されている（日本野鳥の会栃木県支部 1981）が、栃木県にユリカモメが定期的に渡来してくるようになったのは、比較的近年になってからのことである。

このように、以前生息していなかった種が、新たに生息分布を拡張した場合、その観察記録を年をおってまとめることは、渡来状況と環境との関係やその種の渡りのコースを知る手がかりとなる。このような見地から、筆者は、栃木県におけるユリカモメの観察記録を毎年追跡してきた。本報告では、その結果を渡来状況の季節的变化について述べる。

なお、ユリカモメの観察記録を得るにあたっては、遠藤孝一、広田幸弘、河内辰彦、今野研一、高松健比古、戸井田恵二、依藤要の諸氏にご協力いただいた。東京大学農学部の樋口広芳博士には、貴重な御助言をいただいた。この論文をまとめるにあたっては、宮沢光子氏にお世話になった。以上すべての方々に厚くお礼申しあげる。

## 調査地および調査方法

調査は、栃木県全域を対象に行ったが、特に宇都宮市と真岡市の鬼怒川で重点的に行った。宇都宮市の鬼怒川は、1957年以来宇都宮大学探鳥会のフィールドであり、1976年以降は筆者が1年を通してセグロセキレイの生活史の研究を行ってきた地域である（樋口・平野 1981, 平野 1981）。一方、真岡市（正しくは上三川町と真岡市の境界であるが真岡市と略す）の鬼怒川は、真岡の自然を守る会、日本野鳥の会栃木県支部の会員が定期的に観察を行っている地域である。以上のことから、これらの地域では、ユリカモメの比較的正確な記録が長年にわたって得られることが予想できた。

ユリカモメの観察記録の収集にあたっては、筆者が持っている資料に文献調査と聞き取り調査の結果を加えて行った。聞き取り調査は、河川や湖沼を定期的に観察している日本野鳥の会会員を対象に行った。

次に、ユリカモメの渡来の季節変化を明らかにするために、宇都宮市石井町鬼怒橋から下流2.5kmにかけての鬼怒川でラインセンサスを行った。調査期間は、1981年8月から1982年7月までの1年間である。調査の方法は、月4回川岸を時速約1.5kmで歩きながら、見える範囲で観察したユリカモメの個体数をカウントした。重複を避けるため、原則

---

1982年10月17日受理

1. 〒321 宇都宮市峰町265 菊地荘 栃木県支部。

として、下流から遡ってきたユリカモメをカウントした。ただし、下流からのユリカモメがなく、上流からやってきたユリカモメがいた場合はカウントの対象とした、なお、以下文中の+、-、土の記号は、それぞれ以上、以下、前後の個体数を表わしている。

宇都宮市及び真岡市の鬼怒川の環境についてその概略を述べる。鬼怒川は、利根川の一支流で栃木県のほぼ中央を南北に流れる河川である。宇都宮市や真岡市付近の鬼怒川は、河口から約160 Km上流に位置し、標高約100 m前後の平野部を流れている。河川敷は著しく発達しており、その幅は約600 mである。流れは穏やかで、水深は1 m以下の所が多い。環境は多様で、ハリエンジュやカワヤナギの低木林、アキグミの混じったスキの草原、ヨシ原、砂礫地がみられる。大小の中洲が発達しており、多くは直径が10-30 cmの玉石からなっている。真岡市の鬼怒川では、砂質の地域がやや多い。砂利採取後の河原は干潟状の環境となっている。

## 結果および考察

### 1. 鬼怒川における記録

以下に、鬼怒川におけるユリカモメの渡来状況を年ごとに順をおって述べる。

鬼怒川でユリカモメが最初に記録されたのは、1974年である。この年、真岡市では4月19日に64羽（日本野鳥の会栃木県支部 1981）が、宇都宮市では4月21日30羽+、23日7羽、24日5羽（今野研一 観察）が観察された。宇都宮市の鬼怒川では、この年の10月24日と12月7、12、14日に個体数は明らかでないが観察されている（宇都宮大学探鳥会 1975 a）。

1975年には、宇都宮市の鬼怒川で4月15日に30羽土、23日27羽、26日70羽土が観察された（宇都宮大学探鳥会 1975 b）。

1976年には、宇都宮市の鬼怒川で1月22日8羽、4月19日1羽、20日50羽+、23日50羽-、12月21日個体数不明が観察された。

1977年には、宇都宮市の鬼怒川で4月20日60羽土、10月20日7羽、25日30羽土、11月5日2羽、15日1羽、16日5羽が観察された。

1978年には、宇都宮市の鬼怒川で1月21日1羽、4月23日6羽、10月19日13羽、21日1羽が観察された。なお、この年は、春季の信頼できる資料がほとんどなかった。

1979年には、宇都宮市の鬼怒川で3月22日2羽、4月1日1羽、11日2羽、16日147羽、17日50羽土、18日60羽土、26日33羽、5月1日8羽、4日2羽、8月29日1羽、10月29日6羽、11月14日1羽が観察された。

1980年には、宇都宮市の鬼怒川で3月27日9羽、真岡市の鬼怒川で4月27日に140羽+、宇都宮市の鬼怒川で10月16日1羽（宇都宮大学探鳥会 1981）、二宮町鬼怒川で10月24日19羽+が観察された。

1981年には、宇都宮市の鬼怒川で4月13日19羽（戸井田恵二 観察）、17日21羽、21日4羽（戸井田恵二 観察）、8月16日1羽（遠藤孝一 観察）、11月10日3羽（戸井田恵二 観察）、30日3羽が観察された。

1982年には、宇都宮市の鬼怒川で4月9日76羽、17日50羽土、24日6羽が観察された。

次に、鬼怒川におけるユリカモメのセンサス結果について述べる。図1から明らかなように、鬼怒川ではおもに4月と10-11月にその記録が集中していることがわかる。しかも、渡来数は、春季の方が秋季より著しく多い。すなわち、4月には100羽以上の群れを観察するものも稀でない。

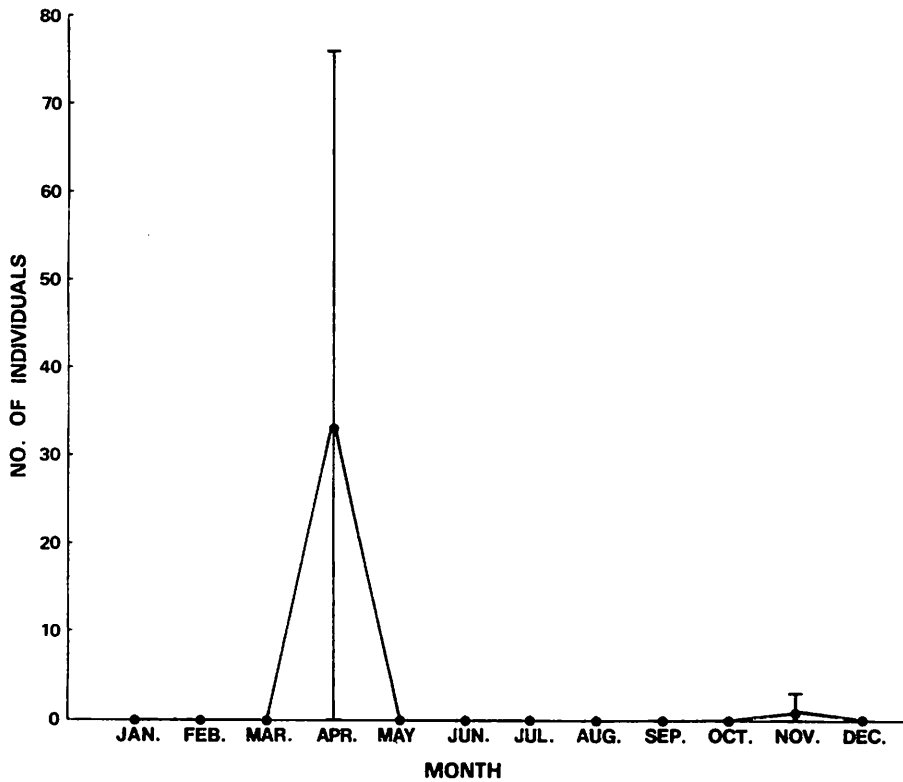


図1. 鬼怒川におけるユリカモメの個体数の季節変化。結果は月4回の調査に基いている。  
 Seasonal changes of populations of *Larus ridibundus* in Kinu River.  
 The results are based on four censuses in a month.

## 2. 栃木県の他の地域からの記録

下都賀郡藤岡町渡良瀬遊水池で1976年3月16日55羽+、9月5日1羽が観察された（日本野鳥の会栃木県支部 1981）。

日光市の大谷川では、詳しい年月日は不明だが、百武充によって1962年4月から66年3月までの期間の冬季に数十羽の群れが観察されている（日本野鳥の会栃木県支部 1981）。日光戦場ヶ原三本松の開拓村の耕地で、1979年11月18日に50羽+が野鳥の会会員によって観察された（北城昭夫 1980）。なお、日光中禅寺湖では、1981年5月(?)にユリカモメの群れが渡来した（下野新聞の写真による）。

下都賀郡石橋町東田橋の姿川では、1981年12月3日1羽が観察された（峰岸 1982）。

那須郡西那須野町赤田調整池では、1981年11月1日に1羽が観察された（河内辰彦観察）。

以上のことから、栃木県におけるユリカモメの記録は、1960年代に日光市大谷川の記録があるものの、1974年を境に著しく増加していることがわかる。このことは、1972年に発行された「栃木県の動物と植物」の中の鳥類の項で（神山ほか 1972）、ユリカモメについては全く述べられていないことから裏付けられる。

鬼怒川におけるユリカモメの季節変化は、3月下旬から5月上旬にかけてと、10月から11月にかけて観察記録が集中している。また、8月下旬や12月～1月にも少数ながら観察されている。3月下旬から5月上旬と10月から11月の記録の集中は、ユリカモメの渡りの時期と一致していると考えてさしつかえないであろう。そして、鬼怒川では、一般に春季の方が秋冬季より著しく渡来数が多い。すなわち、4月には140羽以上の群れを観察することもあった。一方秋冬季には、10羽以下のことが多く、30羽前後が最高であった。このことは、栃木県の他の地域でもあてはまる。12月から1月にかけての記録は、1羽から数羽であり、滞留しないことから、河口付近から飛来した鳥であると考えられる。

栃木県におけるユリカモメの記録が春秋の季節に集中し、しかもこの種の渡りの季節と一致していることは、本県のユリカモメは渡りの途中に立ち寄る鳥たちであることを物語っている。ユリカモメの渡りのコースに内陸を横切っているものがあるのかもしれない。ただし、鬼怒川などで飛び去る方向を見ると、必ずしも北へ向かうとは限らず、旋回しながら高空に上ってから下流へ向かうのも観察されている。

しかし、なぜ栃木県でユリカモメの記録が1974年以降に著しく増加したのかは明らかではない。すでに述べたことだが、鬼怒川における探鳥の頻度は、1974年以前と以後でもあまり違いがないと思われる。また、鬼怒川の環境の変化、特に流れの中の有機物やゴミの量は、あまりないと考えられる。

ユリカモメの渡りのコースが内陸を横切っていることの裏付けは、標識調査や内陸の他の地域の詳しい観察記録にたよるほかはない。今後の他県の内陸部での、本種の渡来状況に興味もたれる。

## 要 約

栃木県では、1974年を境にしてユリカモメの観察記録が著しく増加している。宇都宮市と真岡市の鬼怒川での観察記録をまとめたところ、ユリカモメの渡来時期は、おもに4月と10-11月であることがわかった。これらのことから、ユリカモメの渡りのコースが内陸部を横切っているのではないかと推測した。しかし、なぜ1974年以降栃木県でユリカモメの記録が増加したかは明らかでない。

## 文 献

- 樋口広芳・平野敏明. 1981. 栃木県におけるハクセキレイ (*Motacilla alba*)の繁殖記録と繁殖環境. 鳥, 29:121-128.
- 平野敏明. 1981. セグロセキレイ (*Motacilla grandis*)のテリトリーとつがい関係について. 鳥, 30:23-36.
- 神山忠士・鈴木保男・樋口広芳・御厨正治・山崎治行. 1972. 鳥類. 栃木県の動物と植物編纂委員会編, 栃木県の動物と植物:224-327. 宇都宮, 下野新聞社.
- 北条昭夫. 1980. とりだより. 日本野鳥の会栃木県支部報大瑠璃, 39:20.
- 峰岸利明. 1982. とりだより. 日本野鳥の会栃木県支部報大瑠璃, 48:31.
- 日本野鳥の会栃木県支部. 1981. 栃木県産鳥類目録. 宇都宮, 日本野鳥の会栃木県支部.
- 宇都宮大学探鳥会. 1975 a. 鬼怒川の鳥の記録. 宇都宮大学探鳥会会報こまどり, 13:11-12.
- 宇都宮大学探鳥会. 1975 b. 鬼怒川の鳥. 宇都宮大学探鳥会秋季報, 13-17.

Observation Records of the Black-headed Gull  
(Larus ridibundus) in Tochigi Prefecture

Toshiaki Hirano

In Japan, Black-headed Gulls (Larus ridibundus) are common winter visitors in harbors and near the mouths of rivers. The observation records of this species in Tochigi Prefecture, an inland prefecture in central Honshu, have increased since 1974. The two seasonal peaks occur in April and October to November. It is inferred that the inland migration route may have been established. It is not clear why the observation records have increased since 1974.

Kikuchi-so, 265 Mine-machi, Utsunomiya-shi 321